

表-4.2.1 調査結果一覧表 記入例

施設管理番号		路線名	道路種別	所在地	点検対象 項目	事前通過規制 区間指定		規格基準 (mm)		迂回路	緊急時 通過区分		平成28年度 総合評価 (評価: /～)	被災履歴 (48年度以降)			H18年度 点検結果			管理機関コード		地震時の安定性 (空白欄はのみ)
						有:通行+1 有:特殊+2 無	無 +3	連続雨量 時間雨量	有 +1 無 +2 その他+3		指定無+0 指定有+1	被災履歴 被災区間あり +1 履歴が認められる+2 被災履歴なし +3		被災区間 +1 加算カルテ+2 加算不要+3	総合 評価	評価	対策工	その他	安定	不安定		
N**A001	国道00号	一般国道(指定区間)	△△郡△△町字××	A	3	1	200	90	1	1	1	3	3	2	40	2	2	2	〇〇 地方整備局	〇〇 国道事務所	安定	1
N**A002	"	"	"	A	1	1	200	90	1	1	1	2	1	2	60	2	2	1			不安定	2
N**B111	"	"	〇〇町字△△	B	3	1			2	1	3	1	3	1	70	1	1	1	〇〇ホルム+ 焼壁	L=50m		
N**C201	"	"	"	C	3	1				1	3	3	3	3	40	3	3					
N**C202	"	"	"	C	1	1	150	80	1	1	3	3	3	2	60	2	2					
N**E301	"	"	××郡××町××	E	3	1			1	1	1	1	3	2	30	2	2					
N**E302	"	"	"	E	3	1			2	1	3	1	3	1	60	1	1	1	ハイゲ ホックカルポート	4.0×4.0 L=15m		
N**A001	国道△△号	一般国道(指定区間)	△△郡△△町字××	A	3	1			1	1	2	3	3	3	50	3	3					
N**A002	"	"	"	A	3	1			3	1	1	1	3	3	50	3	3					
N**B201	国道××号	一般国道(指定区間)	〇〇市〇〇町字△△	B	3	1			2	1	2	1	2	1	50	2	2					
N**B201	"	"	"	B	3	1			2	1	2	3	3	3	30	3	3					
N**A001	国道□□号	一般国道(指定区間)	××市××町字××	A	3	1			2	1	1	1	3	2	50	2	2					
N**F601	"	"	"	F	1	1	150	80	1	1	1	1	1	20	3	3						
N**F602	"	"	"	F	1	1	150	80	1	1	3	2	2	60	1	1	1					

表-4.2.2 箇所別記録表(落石・崩壊)記入例

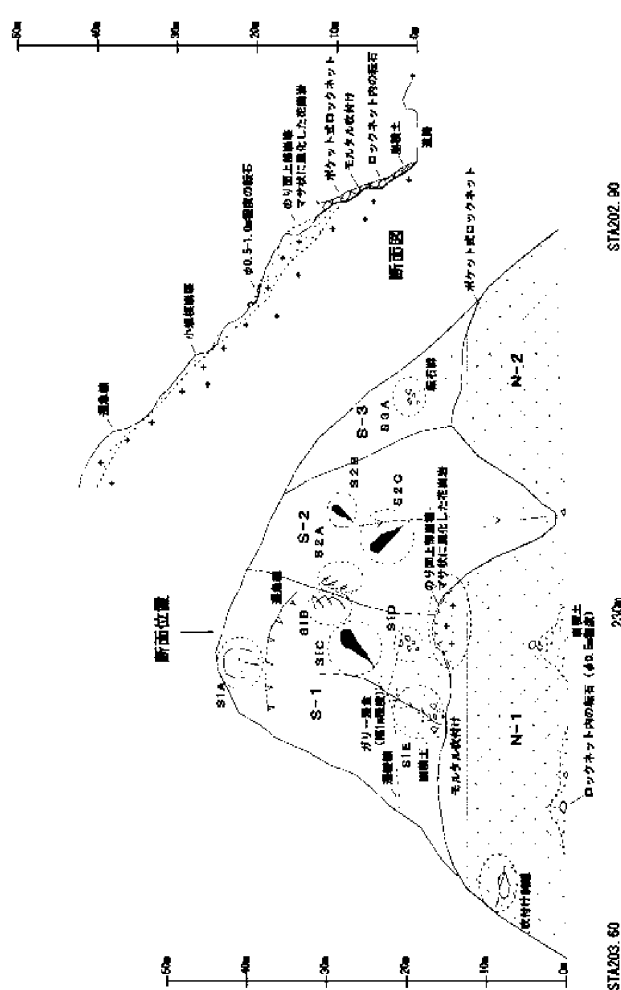
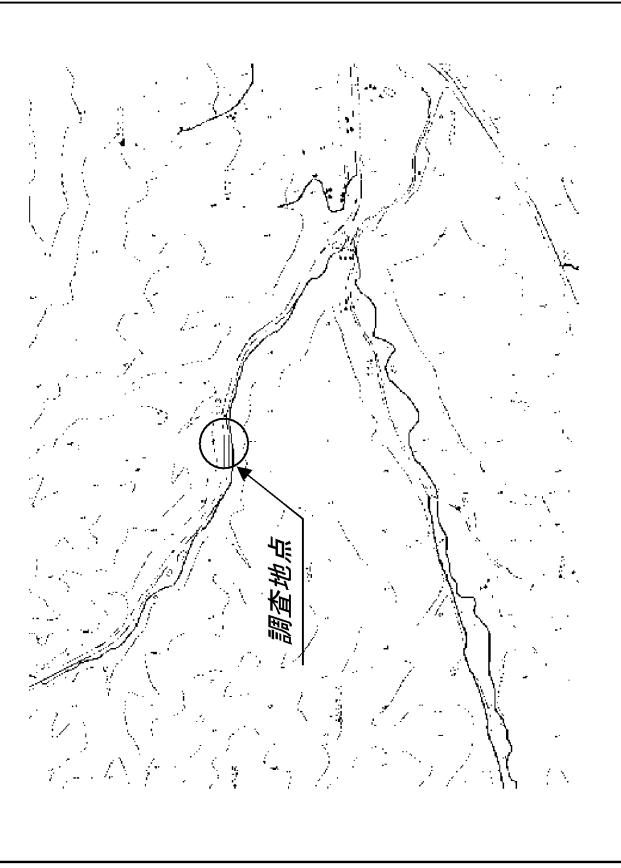
施設管理番号	N**A101	点検対象項目	落石・崩壊	路線名	一般国道**号	距離(自)	2012	90	34°39'46.0"	東経	132°21'31.0"	至	203	下・他	延長	70	m	管理機関名	〇〇 地方整備局 〇〇 国道事務所
事業区分	(一般)有料	道路種別	有(通行)特殊	所在地	〇〇〇〇〇〇町字**	位置目印	高橋た交印を赤ペンキでマーキング	北緯	34°39'46.0"	東経	132°21'31.0"	緊急輸送道路区分	有(無)	迂回路	指定有・指定無				
事前通行規制区間指定	有(通行)特殊	規制基準等	無	交通量	平日800台/12h 休日1,000台/12h	DID区間	該当(非該当)	ハズ路線	該当(非該当)	位置目印	高橋た交印を赤ペンキでマーキング	北緯	34°39'46.0"	東経	132°21'31.0"	緊急輸送道路区分	有(無)	迂回路	指定有・指定無
スケッチ・現況写真(既設対策工、位置目印との位置関係が分かるもの)																			
																			
<p>被災履歴 (有) (1. 被災履歴記録表参照 (2. 詳細不明))・無 (H8年度以降)</p> <p>重複点検対象項目 対応施設管理番号:</p> <p>有・無 落石・崩壊・岩盤露出・地すべり・雪崩・土石流・盛土・擁壁・橋梁・地吹雪・その他</p> <p>平成8年度点検結果 評点(77点)総合評価(劣化)が重要とされ、防災カルテを作成し対応する。特に新たな対応を必要としない。/対応(完了・施工中(未着手))</p> <p>平成18年度点検結果 評点(77点)総合評価(劣化)が重要とされ、防災カルテを作成し対応する。特に新たな対応を必要としない。/対応(完了・施工中(未着手))</p> <p>予想災害規模 吹付けの裏面の崩壊(高7m×幅10m×深1m)、上部斜面からの浮石型落石(φ1~2m)</p> <p>工種: のり面露形 その他: ロックネット工</p> <p>想定対策工</p> <p>地震時の安定性(落石・崩壊のみ): 安定(不安定)</p>																			
<p>特記事項</p> <p>点検実施日: **年**月**日 天候(晴・曇・雨)</p> <p>調査方法: 地表踏査、目視点検、空中写真判読</p> <p>所見: N-1上部では吹付モルタルが剥げ落ち、マサ化した花崗岩が露出する。終点付近では長さ15m程度で横方向に亀裂が走り、亀裂に沿って高さ2m×幅8m程度の範囲にわたってモルタルが剥離している。ロックネット内部には、モルタル剥離箇所や上部斜面からの崩壊土・小落石が認められる。一方、N-2には目立った変状は認められない。 上部斜面では、S-1およびS-2に小規模な表層崩壊が認められ、斜面上に厚さ0.5~1m程度の崩壊土が分布する。このうちS-1では、崩壊土上にガリー浸食が発達する。S-1、S-2境界の尾根部には、崩壊が発達してブロック状を呈する花崗岩の露頭がみられる。S-1の斜面下部には、本露頭起源と推定される小規模な転石群が存在する。 モルタル吹付け部の補修のほか、S1b、S2Aで想定される比較的大きな浮石性落石に対する予防工(グラウンドアンカー工)の設置が求められる。また、斜面上部に認められる崩壊地形に関しては、現時点では表層部に限った小規模なものであるが、カルテを作成して崩壊の進行を監視する必要がある。</p>																			

表-4.2.3 安定度調査表(落石・崩壊)の記入例

点検者 防災太郎
所属機関 OOO株式会社

施設管理番号 N * * * A 0 0 1
部分記号 S-1 N-1

項目	要因	のり面			自然斜面			
		評点区分	配点	評点	評点区分	配点	評点	
地形	G1: 崖地形 G2: 崖線跡地 G3: 台地の裾部、脚部浸食、 土石流跡地など	G1に該当する G2に該当せず G3に該当する G4に該当する	3 0 3 2 0	3 0 3 2 0	G2の内 G2の内 G1.3の内 G1.3の内 G4に該当する	3 2 3 2 0	3 2 3 2 0	
	土質	浸食に弱い土質 水を含むと強度低下しやすい土質 その他	8 4 0	8 4 0	顕著 やや顕著 該当せず	2 1 0	2 2 0	
	地質	副柱目や弱層の密度が高い 浸食に弱い軟岩 風化が強い岩質、その他	12 6 0	12 6 0	顕著 やや顕著 該当せず	8 4 0	8 4 0	
	構造	流れ壁(滑り面、弱線) 不透水性基盤上の土砂 上部が硬質/脚部が脆弱な岩 その他	3 6 4 0	3 6 4 0	該当する 該当せず 顕著 やや顕著 該当せず	2 4 3 0	2 4 3 0	
表層の状況	表土及び浮石・転石の状況	不安定 やや不安定 安定	12 6 0	12 6 0	不安定 やや不安定 安定	24 12 0	24 12 0	
	湧水状況	浮石・転石が不安定→やや不安定 該当する	8 4 0	8 4 0	湧水あり しみ出し程度 なし	4 2 0	4 2 0	
形状	形状	表面の被覆状況	裸地→植生主体 植生(草本) 複合(植生・構造物) 構造物主体	3 5 3 1	3 5 3 1	裸地 植生(草本) 複合(植生・構造物) 木本主体	16 10 10 6	16 10 10 6
			高さ	H>30m 15<=H<30m 30<=H<50m 15<=H<30m H<15m	18 15 10 5 5	H>50m 高30<=H<30m 高さ15<=H<30m H<15m	10 8 6 4	10 8 6 4
			勾配(°)	H>50m 30<=H<50m 15<=H<30m H<15m	18 16 12 10	勾配<70° 45°<=勾配<70° 勾配<45°	10 10 5	10 10 5
			当該のり面斜面の変状 カリ浸食・塊裂・亀裂・開口・陥没・はらみ出し 根出し・脚水・塊裂・開口・亀裂・その他が工の変状)	顕著 顕著 顕著 顕著	12 8 8 5	12 8 8 5	顕著 あり・不明瞭なもの あり・不明瞭なもの なし 顕著 あり・不明瞭なもの あり・不明瞭なもの なし	10 5 5 4
合計		73	73	77	77	77		

項目	内容	点数	評点
対策工(B)	(B)=(A1)+αまたは(A1)×0 想定される落石・崩壊を十分に予防している、もしくは、それが発生したとしても十分に防護し得る。	×0点	斜面
履歴(C)	想定される落石・崩壊をかなり予防している、もしくは、それが発生した場合かなり防護しているが、万全ではない。 想定される落石・崩壊を一部予防している、もしくは、それが発生した場合一部を防護しているが、その他の部分に対しては効果がない。 対策がなされていない、もしくは、なされていない、効果があまり期待できない。	-20点 -10点 ±0点	斜面
合計		63点	77点

項目	内容	配点	評点
最近の対策実施以降、落石・崩壊が当該のり面・斜面等で発生していない場合には、履歴からの評価は実施する必要なし。 →(C)を0点とする。		100点	
最近の対策以降、道路交通への支障が生じたことあり。(対策工の効果なし)		70点	
交通への支障はないが路面に達する比較的大きな落石・崩壊の履歴あり。 (対策工が万全ではない)		40点	
のり面・斜面先にとどまる程度の小規模な落石・崩壊の履歴はあり。(対策工の効果はあるが、追加対策工が必要と思われるもの)		(c)	40点

対	応	判定
対策が必要と判断される。		○
防災カルテを作成し対応する。		
特に新たな対応を必要としない。		

[総合評価]		[地震時の安定性]	
(D)=MAX(B,C)	(B)=MAX(B1B2)	安定	○
(D)=MAX(B,C)	(C)	不安定	○
(D)=MAX(B,C)	(D)=MAX(B,C)		

* 地形でG4または浮石・転石が不安定な場合は、不安定欄に○印をつける。

※総合評価で示した判定がのり面部分、自然斜面のどちらに該当するかを示す。また、想定される主な災害形態が落石か崩壊かを示す。

表一5.1.1 箇所別記録表(落石・崩壊)記入例

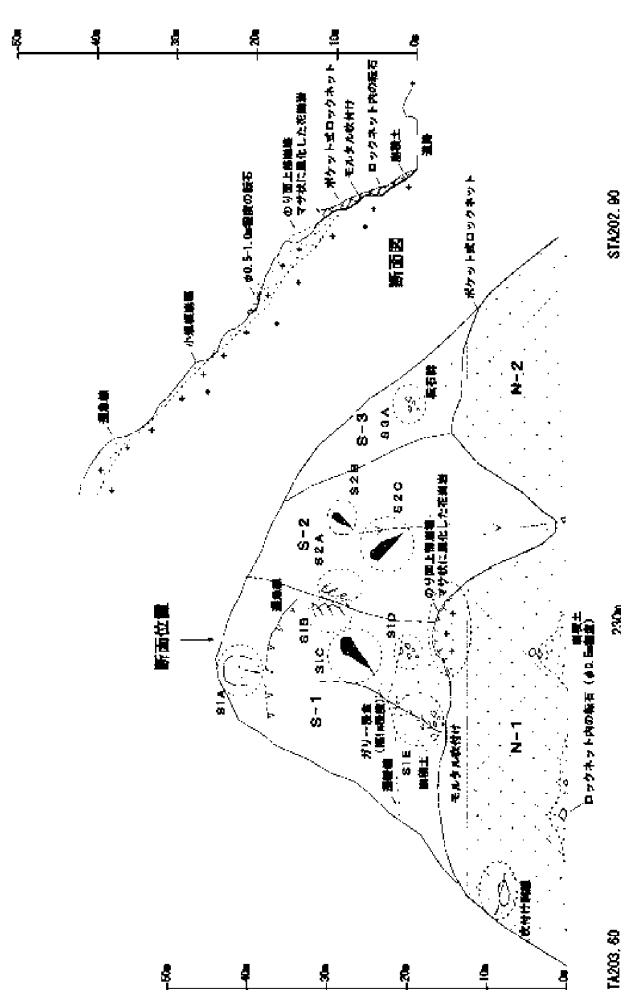
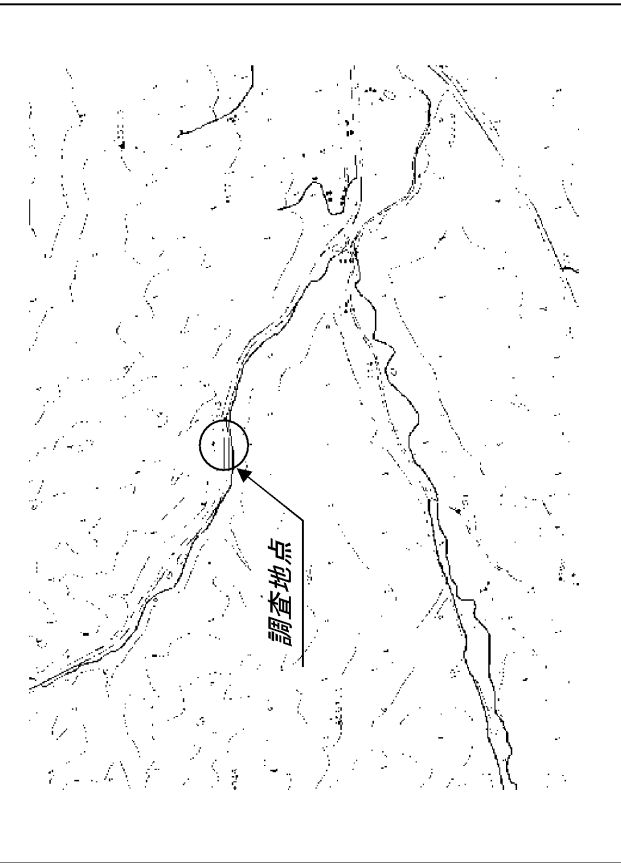
施設管理番号	N1	*	*	A	0	0	1	点検対象項目	落石・崩壊	路線名	一般国道**号	距離標(自)	2	0	2	9	0	至	2	0	3	6	0	管理機関名	〇〇地方整備局 〇〇国道事務所
事業区分	一般	有料	〇	〇	〇	〇	〇	道路種別	一般国道(指定区間)	所在地	〇〇郡〇〇町字**	位置目印	距離標(自)まで	北緯	34° 39' 46.0"	東経	132° 21' 37.0"	管理機関コード	上	下	他	延長	70 m		
事前通行規制区間指定	有	通行	特殊	無	規制基準等	連続雨量200mm	時間雨量40mm	交通量	平日600台/12h	休日1,000台/12h	DID区間	該当	非該当	該当	非該当	有	無	迂回路	有	無	緊急輸送道路区分	指定有	指定無		
スケッチ・現況写真(既設対策工、位置目印との位置関係が分かるもの)																									
																									
特記事項	<p>点検実施: H**年**月**日 天候(晴)曇(雨)</p> <p>調査方法: 地表踏査、目視点検、空中写真判読</p> <p>所見: N-1上部では吹付モルタルが剥け落ち、マサ化した花崗岩が露出する。終点付近では長さ15m程度で横方向に亀裂が走り、亀裂に沿って高さ2m×幅0m程度の範囲にわたってモルタルが剥離している。ロックネット内部には、モルタル剥離箇所や上部斜面からの崩壊土・小落石が認められる。一方、N-2には目立った変状は認められない。 斜面からは崩壊土・小落石が認められる。S-1, S-2境界の尾根部には、崩壊が浸透してブロック状を呈する花崗岩の露頭がみられる。S-1およびS-2に小規模な表層崩壊が認められ、斜面上に厚さ0.5~1m程度の崩壊土が分布する。このうちS-1では、崩壊土上にカリウム浸食が浸透する。S-1, S-2境界の尾根部には、崩壊が浸透してブロック状を呈する花崗岩の露頭がみられる。S-1の斜面下部には、本露頭起源と推定される比較的小規模な崩壊土が存在する。 モルタル吹付け部の補修のほか、S1b, S2Aで想定される比較的小規模の大きな浮石性落石に対する予防工(クラウンドアンカー工)の設置が求められる。また、斜面上部に認められる崩壊地形に関しては、現時点では表層部に限った小規模なものであるが、カルテを作成して崩壊の進行を監視する必要がある。</p>																								
被災履歴	(有) (1. 被災履歴記録表参照) (2. 詳細不明))・無 (H6年度以降)																								
重複点検対象項目	有・(無)																								
対応施設管理番号	落石・崩壊・岩盤崩壊・地すべり・雪崩・土石流・雪崩・土石流・盛土・擁壁・橋梁・地吹雪・その他																								
平成17年度点検結果	許点(77点)総合評価(対策が必要とされる) 防災カルテを作成し対応する。特に新たな対応を必要としない。対応:(完丁・施工中)未着手																								
平成18年度点検結果	許点(77点)総合評価(対策が必要とされる) 総合評価(対策が必要とされる) 防災カルテを作成し対応する。特に新たな対応を必要としない																								
予想災害規模	吹付けの裏面の崩壊(高さ7m×幅10m×深1m)、上部斜面からの浮石型落石(φ1~2m)																								
想定対策工	工種: のり面整形 その他: ロックネット工																								
地震時の安定性(落石・崩壊のみ): 安定	(不安定)																								

表-5.1.2 安定度調査表(落石・崩壊)の記入例

点検者 防災太郎
所属機関 OOO株式会社

項目	要因	のり面			自然斜面		
		評点区分	配点	評点	評点区分	配点	評点
地形	G1: 崖地形 崩壊特性 を有する	G1に該当する	3		G2の内 1地形該当	3	
	G2: 崖急傾斜地	G2に該当せず	0		G2の内 該当なし	2	
	G3: 台地の裾部、脚部浸食、 ○(A)ハング、集水型斜面、 土石流跡地など	G2,G3の内 1地形該当	3		G1,G3の内 1地形該当	3	
	G4: 尾根先端など凸型斜面、○(A)ハング	G4に該当する	0	3	G4に該当する	0	6
土質・地質・構造	崩壊土質 の崩壊 特性	浸食に弱い土質 水を含むと強度低下しやすい土質 その他	8 4 0		顕著 やや顕著 該当せず	2 1 0	2 (2)
	崩壊土質 の崩壊 特性	崩壊土質 の崩壊 特性	12 6 0		顕著 やや顕著 該当せず	8 4 0	8 (8)
	崩壊土質 の崩壊 特性	浸食に弱い軟岩 風化が強い岩質、その他	6 4 0		顕著 やや顕著 該当せず	4 3 0	6 (6)
	崩壊土質 の崩壊 特性	流れ盤(滑理面、弱線)	3		顕著 やや顕著 該当せず	4 3 0	5 (5)
表層の状況	表土及び浮石・転石の状況	不安定 やや不安定 安定	12 6 0		不安定 やや不安定 安定	24 12 0	12 (24)
	浮石・転石が不安定→やや不安定	該当する	8		顕著 やや顕著 該当せず	4 3 0	7 (7)
	湧水状況	湧水あり しみ出し程度 なし	4 4 0		湧水あり しみ出し程度 なし	2 2 0	4 (4)
	表面の被覆状況	裸地→植生主体 植生(草本) 複合(植生・積雪・木本) 積雪物主体	5 3 1 1		裸地→植生(草本) 複合(植生・積雪・木本) 積雪物主体	16 10 6 6	10 (16)
形状	勾配(%)、高さ	H>30m 15<=H<30m 30<=H<50m 15<=H<30m H<15m	18 15 10 16 5		H<=50m 高30<=H<30m 高さ15<=H<30m H<15m	10 8 6 4	10 (10)
	当該のり面斜面の変状 カリ変状・亀裂・凹欠・孔・陥没・はらみ出し 崩出し・脚部・亀裂・脚部亀裂・その他が工の変状)	顕著該当・明瞭なものあり あり・不明瞭なもの なし	12 8 0		顕著該当・明瞭なものあり あり・不明瞭なもの なし	10 5 0	10 (10)
	隣接するのり面・斜面等の変状 (落石・崩壊・亀裂・はらみ出し・その他の変状)	顕著該当・明瞭なものあり あり・不明瞭なもの なし	5 3 0		顕著該当・明瞭なものあり あり・不明瞭なもの なし	4 2 0	4 (4)
	合計	73	73		77	77	(A2)

注()は各項目の満点を示す。
該当する場合は配点欄に○印をつけてとくに点数を記入する。
不明な場合は中間的な値を採用する。

対策工(B)=(A1)+αまたは(A1)×0	点数(α)	評点
想定される落石・崩壊を十分に予防している、もしくは、それが発生したとしても十分に防護し得る。	×0点	斜面
想定される落石・崩壊をかなり予防している、もしくは、それが発生した場合かなり防護しているが、万全ではない。	-20点	斜面
想定される落石・崩壊を一部予防している、もしくは、それが発生した場合一部を防護しているが、その他の部分に対しては効果がない。	-10点	斜面
対策がなされていない、もしくは、なされていないが、効果があまり期待できない。	±0点	斜面
合計	63点	77点

[履歴](C)
* 最近の対策実施以降、落石・崩壊が当該のり面・斜面等で発生していない場合には、履歴からの評価は実施する必要なし。
→(C)を0点とする。

被災の頻度・程度区分	配点	評点
最近の対策以降、道路交通への支障が生じたことあり。(対策工の効果なし)	100点	
交通への支障はないが路面に達する比較的大きな落石・崩壊の履歴あり。 (対策工が万全ではない)	70点	
のり面・斜面先にとどまる程度の小規模な落石・崩壊の履歴はあり。(対策工の効果はあるが、追加対策工が必要と思われるもの)	40点	
(c)		40点

[総合評価]

対応	判定
対策が必要と判断される。	○
防災カルテを作成し対応する。	
特に新たな対応を必要としない。	

[地震時の安定性]

安定	
不安定	○

* 地形でG4または浮石・転石が不安定な場合は、不安定欄に○印をつける。

要因からの評点	(B)=MAX(B1B2)	77点
履歴からの評点	(C)	40点
(B)と(C)の内、大きい方	(D)=MAX(B,C)	77点

主な点検対象	主な災害形態
のり面	落石 ○
自然斜面	崩壊 ○

※総合評価で示した判定がのり面部分、自然斜面のどちらに該当するかを示す。また、想定される主な災害形態が落石が崩壊を示す。

表-5.2.3 安定度調査表(岩盤崩壊)の記入例

項目	要因	評点区分	配点	評点
現象・前兆	開口亀裂の規模	大 小 なし	(30) 15 0	30 (30)
	連続する水平系亀裂の目の方向	流れ方向 受け目方向 なし	(10) 5 0	10 (10)
	小崩壊・落石	有り なし	(7) 0	7 (7)
	亀裂等の状況	規則的で間隔が1m以上	15	
規則的で間隔が1m未満		(11) 7 0	11 (15)	
岩質組合せ	軟い岩	11 7 4 0	0 (11)	
	上部硬質/下部軟質 上部軟質/下部硬質 全体が軟質 全体が硬質	7 5 2 0	0 (7)	
地形	流氷盤 流れかけ盤 盤なし	(15) 5 0	15 (15)	
	のり面 斜面の傾斜	(4) 2 2 0	4 (4)	
	崖壁の高さ	100m以上 50~100m 30~50m 30m以下	10 7 (4) 2	4 (10)
	斜面型	尾根型斜面 崖壁連続斜面 谷型斜面 尾根型・谷型の中間斜面	(4) 3 1 0	4 (4)
地下水・降雨	遷急線	明瞭 どちらともいえない 不明瞭	(7) 4 0	7 (7)
	凍結融氷 湧水 水柱	水溜りが長期に渡る、もしくは常時湧水あり 水溜り凍結はすぐ融ける、もしくは降雨後湧水あり 水溜りは凍らない 垂直亀裂間 水平系地層薄層 ほとんど認めず	(4) 2 0 1 0	4 (4) 2 (2)
合計			(A)	98 点

[対策工(B)=(A)+αまたは(A)×0]

既設対策工の効果の程度	点数(α)	評点
想定される岩盤崩壊を十分に予防している、もしくは、それが発生したとしても十分に防護し得る。	×0点	
想定される岩盤崩壊をかなり予防している、もしくは、それが発生した場合かなり防護しているが、万全ではない。	(-20)点	-20
想定される岩盤崩壊を一部予防している、もしくは、それが発生した場合一部を防護しているが、その他の部分に対しては効果がない。	-10点	
対策がなされていない、もしくは、なされているにもかかわらず、効果があまり期待できない。	±0点	
合計	(B)	78 点

[総合評価]

対応	判定
対策が必要と判断される。	○
防災カルテを作成し対応する。	
特に新たな対応を必要としない。	

注) ()は各項目の満点を示す。
該当する場合は配点欄に○印をつけると共に点数を記入する。
不明な場合は中間的な値を採用する。

表一5.3.2 箇所別記録表(地すべり)記入例

施設管理番号	N * * C 0 0 1	点検対象項目	一般国道	路標名	一般国道**号	距離標(自)	3 6 1	9 0	3 6 2	1 0	管理機関コード	〇〇 地方整備局 〇〇 国道事務所	
事業区分	(一) 有料	道路種別	一般国道(指定区間)	所在地	〇〇郡〇〇町字**	位置目印	距離に矢印を赤ペンキでマーキング	北緯	33° 35' 32.0"	東経	139° 24' 35.0"	他	下
事前通行規制区間指定	(有) (通行) 特殊: 無	規制基準等	規制基準等: 無	交通量	平日 900台/12h 休日 1,100台/12h	DID区間	該当(無該当)	ハズ路線	該当(無該当)	迂回路	有(無)	緊急輸送道路区分	指定有・指定無
スケッチ・現況写真(既設対策工、位置目印との位置関係が分かるもの)													
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>断面図</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>平面図</p> </div> </div>													
<p>特記事項</p> <p>点検実施 H * 年 * 月 * 日 天候: (晴) (雨)</p> <p>調査方法: 地表踏査、巨視点検</p> <p>所見: モルタル吹付工の斜面最上部に約30cmの段差が認められる。ブロック積みの法原面には、(評価理由) 圧縮性の亀裂が認められる。モルタル吹付部の地すべりの兆候は平成2年度の防災点検で指摘され、それ以後ブロックフェンスの設置やモルタル吹付けが実施されている。ただし、今回ブロック積み新たに変状があることから、地すべり変動が沈静化しているとは判断しがたい。</p>													
<p>被災履歴 有 (1. 被災履歴記録表参照 2. 詳細不明:)・(無) (H8年度以降)</p> <p>重複点検対象項目 対応施設管理番号:</p> <p>有・(無) 落石・崩壊・土石崩壊・地すべり・雪崩・土石流・盛土・擁壁・橋梁・橋脚・地吹雪・その他</p> <p>平成8年度点検結果 評点(77点)総合評価(劣化)対策が必要とされた(防災カルテを作成し対応しない/対応(完了・施工中(未着手)))</p> <p>平成18年度点検結果 評点(45点)総合評価: 対策が必要と判断される(防災カルテを作成し対応する)特に新たな対応を必要としない</p> <p>予想災害規模 豪雨等で地すべりが滑動破壊した場合、トンネル坑口から約10m間が埋塞(土量10,000m³)する可能性あり</p> <p>工種: のり付工 その他: アンカー工</p>													